

学年：2年	単元名：13. 4けたの数 -1000より大きい数をしらべよう
-------	------------------------------------

1. 単元目標：(全 11 時間)

○10000までの数についてその意味や表し方を理解し、数の概念についての理解を深め、図や式を用いて考える力を養うとともに、十進位取り記数法の仕組みを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の学習や生活に活用しようとする態度を養う。

考判表・単位の考え方を活用して考える。

- ・十進位取り記数法の考えを深める。

知・技・4位数について、書いたり読んだりするとともに、数の構成や大小、数の相対的な大きさを理解する。

- ・4位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、相等関係を不等号や等号を用いて表すことができる。

2. 指導内容

・

3. 指導のポイント

○量として10000を体感させる。→数としてとらえるよう導く。

- ・1m←→10000m (直線コースがあれば最適)
- ・1円玉←→10000円 (1円玉で10000枚)
- ・1個 (どんぐり・ビー玉) ←→10000個
- ・1枚 (用紙) ←→10000枚 (1束1000枚だから10束) など
- ・1000から10000を想像させる。

☆「単位の考え方」や「十進位取り記数法」の考え方を加えながら操作をする。

○単位の考え方の活用。(数の相対的な見方)

- ・「10を単位にして考える」「100を単位にして考える」「1000を単位にして考える」

○十進位取り記数法

- ・「位」=「数字をかく位置・場所」
- ・「0」の意味。(位を表す「0」)
- ・同じ位の数同士で考える。
- ・数の大小比較。(上の位の数を見ればよい。) →順序数として・集合(計量)数として

○漢数字には、「0」がないので注意が必要。

- ・漢数字→数字：位をとばさずに「0」を唱えながらかく。二千三→二千零百零十三→2003
位を書く場所を前もって決めておいてから後で「0」をいれる。

2□□3→2003

- ・数字→漢数字：「0」がついている位をとばして唱える。2003→二千三

○「位のものさし」を使って考えさせる。

万							
千	百	+	-	千	百	+	-

徐々に念頭操作するよう指導していく。

4. 指導にあたって

①子どもたちにどんな見方や考え方を獲得させたいか。

②それを通してどんな子どもに育てたいか。

5. 学習展開

第1時

学習のめあて（作業・知る・考える）
〇10000までの数を知ろう。（P50/51/52）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>1. 問題把握</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">みんなで石ころを 1000 個以上集めよう。</p> <p>T:今日は、運動場の石ころを 1000 個以上集めて、10000 個は、どれくらいか考えようと思います。それで、まず 1000 個集めてみます。この牛乳パックに石ころを 10 個入れます。そして、この画用紙の上に並べていきます。この画用紙は、このマットの上におきます。牛乳パック 1 個が 10、それが 10 個乗った画用紙は、100、その画用紙が、10 枚で 1000 だから、このマット 1 枚が 1000 になります。ぱっと見て、わかる並べ方は、わかりますね。では、みんなでがんばってやりましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場所：運動場 ・牛乳パック 100 以上 ・画用紙 10 枚以上 ・マット 10 枚 ・10000 は、「知っている」という前提で考える。
<p>2. 自力解決・学びあい</p> <p>C（石ころ集め）</p> <p>T:できましたか。確かめてみます。</p> <p>牛乳パック 1 つで 10、2 つで 20、・・・10 個で 100</p> <p>画用紙 1 枚で 100・・・・・・1000</p> <p>このマットで石ころが 1000 個集まったことがわかりました。</p> <p>では、もうあと 1000 を 9 つ集めます。→C:えー！</p> <p>T:では、頭の中で集められますか。→C:できる！</p> <p>マット 1 枚で 1000、2 枚で・・・・・・10 枚で 10000 です。</p> <p>T:どれくらいだと思いますか。</p> <p>※子どもにいろいろ感想を述べさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・石ころ集めをしている間にマットをあと 9 枚並べる。 ・十進位取り記数法の確認。
<p>3. まとめ・ふりかえり</p> <p>T:そうですね。10000 という数が、どれくらいわかりましたか。</p> <p>自分の感じた 10000 という数について、書きましょう。</p> <p>T:マット 2 つと画用紙 3 枚、牛乳パック 5 こと石 4 こでいくらですか？→C:2354 です。</p> <p>T:こんなことについて、次の時間勉強します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で 10000 を表現させたい。 ・次時への予告

(まとめ)

10000 は、

- ①1000 (マット) 10 こ (10 枚)
- ②100 (画用紙) 100 こ (100 枚)
- ③10 (牛乳パック) 1000 こ (1000 こ)
- ④1 (石ころ) 10000 こ (10000 こ)

第2時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○10000までの数を読んだり、書いたり、意味を考えたりしよう。（P50/51/52/53）

1. P50/51の1円玉が、いくつあるかかぞえさせる。→2354 二千三百五十四
2. WS①を使って、問題をたくさんする。

○はじめは、ワークシートを使うが、徐々にワークシートなしでできるようにしていく。
ワークシート→位を分ける線だけ→線をはずす。

（問題例）

- ①2923は、1000が、2つと100が3つと10が2つと1が3つです。
- ②1000が4つと100が5つと10が1つと1が7つでは？→4517です。
- ③次の数を読みましよう。「6789」
- ④次の数を数字で書きましよう。「三千五百七十四」

4種類の問題を多く用意しておく。

だんだん、「位」とばすような問題にしていく。（「0」の入った数。）

○漢数字には、「0」がないので注意が必要。

・漢数字→数字にするとき

- ・位をとばさずに「0」を唱えながらかく。二千三→二千零百零十三→2003
- ・位を書く場所を前もって決めておいてから後で「0」をいれる。

2□□3→2003

・数字→漢数字：「0」がついている位をとばして唱える。2003→二千三

（問題）

1. 読む 1763 2430 7095 5004
2. 書く（Tが、言う） 1383 6000 7008
3. 1000を2こ、100を9こ、10を2こ、1を3こあわせた数は？→2923
2923 6789 2407 9035 5001 7050
4309 2651
4. 「四千百三十八」かきなさい。→4・1・3・8で
1000を4こ、100を1こ、10を3こ、1を8こです。
4138 3074 1027 8652 4025 6050

第3・4時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○練習問題をしよう。（P52/53/54/55）

○P52/53/54/55→教科書に書き込む。

※注意！：P54③

○残りの時間は、第2時と同じようにする。

第5時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○10や100や1000を1と考えたときの大きな数の見方を知ろう。（P56）

○問題の種類

はじめは、位のワークシートを使って答えを出していく。

①100を24こ集めた数は？

・いくつか問題をすることで、きまりを見つけさせる。→「0」の数だけ増やせばいい。

100を18こ 46こ 30こ

1000を5こ 13こ 52こ

10を25こ 40こ 235こ

②3200は、100を何こ集めた数？

・いくつか問題をすることで、きまりを見つけさせる。→「0」の数だけ減らせばいい。

5700 3200 9000 25000 650

→10をいくつ？ 100をいくつ？ 1000をいくつ？

③P56⑨⑩の問題

第6・7時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○10000までの数を数直線で表そう。（P57/58/59）

○10000を順序数としてとらえさせる。

・10000までの数を順に唱える。

・10000までの数を数直線上に表す。

※1めもりがいくらかを見つける方法

→数値を読み上げていって、うまくいったらそれが答えである。

・1ずつ 10ずつ 100ずつ

・5ずつ 50ずつ 500ずつ

・2ずつ 20ずつ 200ずつ

○補充問題の準備

学習のめあて（作業・知る・考える）

○4けたの数を数直線上に表し、それをもとにいろいろな表し方をしよう。（P60）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>1. 問題把握</p> <p>T:今日は、4けたの数のいろいろな表し方を考えます。 そして、最後に問題作りをします。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">3800 という数をいろいろな表し方をしよう。</p> <p>T:数直線を見ましょう。3800 はどこですか。→C:ここ T:どうしてそこだとわかるのですか。→C:(いろいろ説明) T:では、確かめますね。1めもりはいくらですか?→C:100 T:では、ききますよ。□に何がはいるか考えましょう。</p> <p>①3800 は、□と800 をあわせた数です。 ②3800 は、4000 より□小さい数です。 ③3800 は、100 を□こ集めた数です。</p> <p>※はるとさんの式もやっておく。(3800=3000+800) T:では、①～③を問題にしてみます。こんな感じです。 ①3000 と800 をあわせた数はいくつですか ②4000 より200 小さい数はいくつですか。 ③100 を38 こ集めた数はいくらですか。 となります。もちろん答えは、この場合は、みんな3800 になりますね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 数直線のめもりを確認する。 • 数直線を使って答えを確認していく。 • 問題形式の提示。
<p>2. 自力解決・学びあい</p> <p>T:では、いくつか問題を出します。答えをノートにかきましょう。</p> <p>①4000 と200 をあわせた数。 ②8000 より100 大きい数。 ③100 を54 こ集めた数。</p> <p>※答え合わせ T:こんな問題を作ります。 ①() と() をあわせた数。 ②() より() 大きい(小さい) 数。 ③() を() こ集めた数。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 個別指導 • 問題形式をしっかりおさえる。 • 作問の前にP60④を一斉指導。
<p>3. まとめ・ふりかえり</p> <p>T:問題をどう作ったらよいかわかりましたか。 では、WB を配ります。やり方を説明します。</p> <p>①まず答えを決めます。 ②問題をつくります。問題は、黒板に書いてある3種類の中で1つ選んでWB にかきます。 ③答えは、ノートにかいて、WB とノートを先生に持ってきます。 ④合格したら、WB を黒板に貼ります。 ⑤友達の問題をどんどん解いていって、友だちに○をつけてもらいましょう。</p> <p>T:10 人以上解けるといいですね。 では、始めましょう。</p>	

※復習でまとめの内容であるので、作問指導を取り入れた。

第10時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○いかしてみよう（P61）

○大きさを表している数と大きさを表していない数を分類する。

第11時

学習のめあて（作業・知る・考える）

○たしかめよう 算数の目（P62/63）
